

教育研究評議会議事録

令和4年10月5日(水)
15時15分から16時55分まで
法人本部3階 第一会議室

出席者
議長
評議員

玉手英利(学長)
飯塚博 出口毅 矢作清 花輪公雄 額瀨晃(理事)
林田光祐 大森桂 羽鳥政男(副学長)
是川晴彦 本多薫
中西正樹 津留俊英
並河英紀 宮地義之
川前金幸 佐藤慎哉
黒田充紀 今野博行
村山秀樹 渡部徹
伊藤浩志 三上英司

陪席者

監事 渡辺均 大森夏織
小白川キャンパス長 大西彰正
学長補佐 池田弘乃 名倉明子 常松佳恵 永瀬智 高澤由美 東原知哉 藤科智海

欠席者

評議員 根本建二 上野義之

1 【議事録】教育研究評議会(9月14日開催)議事録について

玉手学長から、前回9月14日開催の本会議事録(案)について確認があり、議事録が了承された。

2 【協議】令和5年度一般選抜学生募集要項について

出口理事から、令和5年度一般選抜学生募集要項について、昨年度入試からの主な変更点と今後の日程について審議願うものである旨説明があった。

次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

3 【報告】令和4年度における国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について

花輪理事から、議題に関して、報告があった。

4 【報告】機構化について

玉手学長、出口理事及び飯塚理事から、議題に関して、報告があった。

本件に関して主な質疑応答は以下のとおり。

- ・キャンパス機能と本部機能を同じ人が兼任するようなことがないか心配している。組織が複雑化すれば、マネジメントする人が必要となる。そこも既存のリソースをやりくりして対応するのか。
- ・業務や会議体が増加・複雑化しないよう進めていきたい。

5 【報告】第4期中期目標・中期計画の進捗管理について

花輪理事から、議題に関して、報告があった。

- 6 【報告】令和4年度大学院入試について
出口理事から、議題に関して、報告があった。
- 7 【報告】令和5年度の教育プログラム認定（大学院）について
出口理事から、議題に関して、報告があった。
- 8 【報告】文理融合学位プログラムの設置に向けて
出口理事から、議題に関して、報告があった。

本件に関して主な質疑応答は以下のとおり。

- ・今後のスケジュールを示してほしい。
- ・令和7年の4月の設置を目指している。今後議論を加速させ、令和6年の3月までに書類作成等ができるよう検討していきたい。
- ・学部改組なども関連してくるため、しっかりとスケジュールを示していただき、それに応じて学部側の対応を示していけるようにしたい。
- ・文理融合プログラムを先行して実施している大学で、高校生のニーズは高まっているのか。
- ・他大学の学環等の情報収集は急ぎ対応していきたい。ニーズ調査も行っていきたい。
- ・どのような受験生をターゲットにしているのか。
- ・進学校だけでなく実業的な高校からも受けられるようにしていきたい。
- ・世の中が変わり、他大学も力をつけてきている。マーケティングをして、そのなかでどう山形大学の特色を出していくか検討すべきである。
- ・文理融合学位プログラムは、大学が地域の課題に主体的にコミットしていく非常に大きな一手である。意思決定プロセスを確認したい。
- ・教育組織全体に関わるため、具体的な計画ができた段階で本会において議論したい。本会で意見を尽くすことが、非常に重要なプロセスだと考える。最終的には、本会の了承を経た上で役員会にて決定となる。
- ・人やお金の配置、経営などにおけるキャンパス長の判断が重要になる。本会において、小白川キャンパス長はオブザーバーである。キャンパス長も発言権を持った場において、協議するようにしてほしい。
- ・学位が学術ということだけで、実際にやることがまだ見えないため、連携の相談を受けても学部では答えを出せないところである。学位の大枠の前に、まずはどのような教育をするかを定めるべきではないか。

- 9 【報告】安全保障輸出管理キャッチオール規制違反に係る事後審査の結果について（報告）
飯塚理事から、議題に関して、報告があった。
- 10 【報告】国立大学法人及び大学共同利用機関法人の信用を失墜する行為があった場合の国立大学法人運営費交付金の取扱いについて
財務部長から、議題に関して、報告があった。
- 11 【報告】研究費不正防止強化月間の結果について（速報値）
財務部長から、議題に関して、報告があった。
- 12 【報告】経営協議会（9月21日開催）について
学長から、議題に関して、報告があった。
- 13 【その他】令和5年度「成果を中心とする実績状況に基づく配分」に向けた取り組み状況について
財務部長から、議題に関して、報告があった。

その他、以下のとおり質疑応答があった。

- テレワーク 30%という目標について、現場では窓口業務などもあり、対応に悩んでいるところである。
- 現状の業務フローを変えないとできない部分があると思われる。テレワークをするにあたって何が課題となるかを部局からも提案していただき、対応を検討していきたい。
- テレワークの際の労務管理及びセキュリティは課題となるため、大学として対応を検討願いたい。

次回は、令和4年11月9日（水）に開催することとなった。